

地域と学校をつなぐ地域学校協働活動 コーディネーターの役割の重要性

千代田区立神田一橋中学校

本校（盛谷樹校長）は、皇居の内堀に隣接し、古書店や出版関係の事業所が立ち並ぶ等、歴史と伝統が息づく文化的な環境にある学校です。平成17年神田地区3校（今川中、練成中、一橋中）が統合し、神田一橋中学校としてスタートしました。地域との連携を重視し、神田地区の伝統行事等への参加や地域人材をゲストティーチャーとしてお招きし、日本の伝統文化について理解を深める体験学習等の充実を図っています。

令和5年5月、「日本三大祭り」「江戸三大祭り」の一つとされる「神田祭」が4年ぶりに開催され、本校は、にぎやかな曳き物や仮装行列の「付け祭」に、有志生徒と保護者ボランティア総勢約60名が参加しました。

前回、令和3年「神田祭」は、感染症感染拡大の影響で中止でした。教職員の異動サイクルに伴い、前回の「神田祭」に参加した経験のある教職員は、1名のみでした。今回「神田祭」に学校として参加する準備を、地域学校協働活動コーディネーターを中心に、地域の方々のご協力のもと実行委員会を開設し、一から準備等を進めました。

当日は小雨の降る中、本校有志生徒は約3キ口の道のりをこやかにそして堂々と、神田明神まで2台の曳き物を曳き続けることができました。沿道からは地域の方々をはじめ、多くの方々から声援とともに大きな拍手をいただき

ました。また、地元町会の一員として参加している本校生徒もそれぞれの町会のはんてん等を身に着け、応援にかけつけてくれました。「神田祭・付け祭」への参加は、神田一橋中学校の生徒しかできない貴重な経験でした。

今回、地域学校協働活動コーディネーターの活躍は、地域行事参加への大きな後ろ盾となりました。本校のみならず、働き方改革を推

進しつつ、持続可能な地域行事への参加の在り方を構築することは、学校教育の喫緊の課題です。子育て世代の教職員が多い本校の現状も鑑み、地域と学校をつなぎ、地域全体で生徒の成長を支える共同体をまとめる地域学校協働活動コーディネーターの役割の重要性は、益々高まっています。

地域学校協働活動が継続することで、将来本校の卒業生が、地域に貢献し、主体的に次世代の中学生の成長を支える人材となるよう、これからも地域とともに、新たな時代に求められる教育活動を展開していきます。



《会報第155号掲載7月1日発行》